



野生の

黒メダカを

捕える!!

1. どうして黒メダカを 捕えようと思ったか

メダカの授業、理科の授業でメダカは水草などが多く、流れがゆるい池や小川、田の用水路などにすんでいることを習った。今年は、山や湖、沼、田などが多くある福島県裏磐梯に旅行に行く。だから学習したことを、野生の黒メダカをつかまえることで石巻のようと思った。

父がメダカがいそうなところを車で、合計13ヶ所まわった。各ヶ所では、以下の事について注目して調べた。

① 小川、沼のようす

② [幅、深さ、速さ、護岸の状態]

③ いた生き物

(一ページ一ヶ所)

また、コメントも書いた。

2. 実際の調査

①



テ - タ

幅: 150cm ~ 180cm

深さ: 50cm

速さ: 秒速100cm

護岸の状態:

三面コンクリート
護岸

13ヶ所のうち、一番流れが速かった。水の量もあるし、三面コンクリート護岸だから、魚はいないと思っていた。アメンボもいなかったから、流れがはやいとメダカはいないのだろうか。たぶん、用水路に落ちたアマガエルのように、いたとしても、流されて死んでしまったのかもしれない。

いた生物 なし

2



メダカ

幅: 30cm
 深さ: 3cm
 流速: 流速 10cm

護岸の状態:
 糸糸堀り

水深が3センチと浅かった。トジョウとヤゴがいて、糸糸堀りた。だからメダカもいるかなあと思っていたが、浅すぎて、魚もあまりいなかった。浅すぎてもメダカがいないことが分かった。

見つけた動物
 トジョウ
 ヤゴ

トジョウの赤ちゃん →
 体長糸糸5cm。
 ヤゴはとれなかった。



3

テ - タ

幅： 330cm

深さ： 115cm

速さ： 秒速 20cm

護岸の状態：

総素掘り



理科で習ったメダカがいるところみたいだな
感^じいた。でも、アメンボくらいしかいなかった。
どうしてだろう。と思った。よく考えてみると、
農薬などが使われている。それで「生き物がいない
のかもしれない」と思った。

いた生き物……なし

テ - タ



幅：
50(下流)~120(上流)cm

深さ： 10cm

速さ： 秒速 40cm

護岸の状態：
総素堀り

なせちがう番号なのに同じページにしたかとい
うと、④と⑤は同じ小川で、同じ生き物か
いた場所がちがったからだ。カネヒラカメダカ
に見えたけれど、エサになる物があまり見あた
らなかった。ここにメダカを放流したとしても、エ
サがたりなくて死んでしまうだろう。



いた生き物...アメリカザリガ
ニ、カネヒラ
↓ タゴの一種。アミで
とった。(上流)



↑
下流にいたアメリカザリガニ。
(体長約10cmと大きい)

6



テ - タ

幅: 180 cm

深さ: 20 cm

速さ: 秒速40 cm

護岸の状態:

三面コンクリート

(底にドロカがたまつた)

13ヶ所の中で一番太い川だった。父がブラックバスを発見したから、メダカはブラックバスに食べられてしまったのかな、と思った。たが、元バスプロの父は、

「メダカとかタナゴとか小さいものよりカサガニやエビの方が食べやすい。」

と言っていた。だから、何が原因なのか分からなかった。

いた生き物

ブラックバス、ドジョウ、タイコウチ

7

データ

巾高： 120cm

深さ： 25cm

速さ： 秒速 40cm

護岸の状態：

総素掘り



川の底には草が生えていなくて、かくれる場所や、卵を
生む場所がないようだった。藻やコケなど、エサも見あた
らなかつたからメダカもいないのだと思う。

いた生き物

コイ、アメリカザリガニ

テ - タ

幅： 80cm

深さ： 40cm

速さ： 秒速 5cm

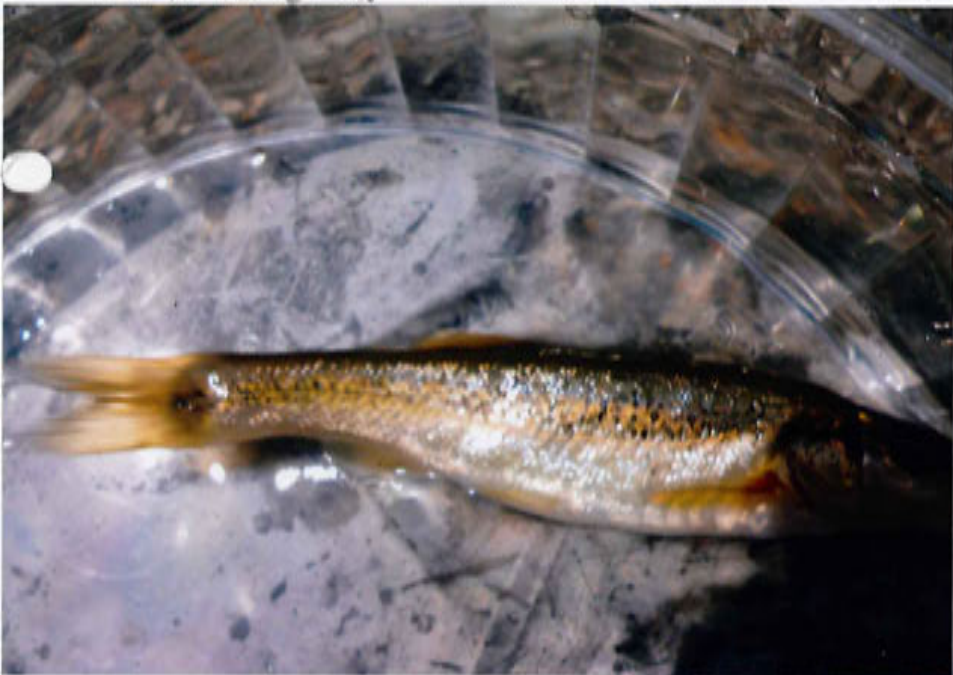
護岸の状態：

総素掘り



底には、水草や、メダカのエサになるようなものが見えて、流れもゆるいところだった。理科やメダカの授業で習ったメダカがいる環境がそろっていた。

いた生き物 ... タモロコ、黒メダカ、ドジョウ



↑
タモロコ

黒メダカ



9



データ

幅 : 1月 200m以上

深さ : 200cm

護岸の状態:
総素掘り

この沼は、⑦とつながっている。水深が深いから、岸の近くの水面に、メダカが「アメンボ」の近くに群集して泳いでいた。ブラックバスやコイなど「を釣っていた人がいたから、メダカはたくさんいたから、ブラックバスなどに食べられないこともあったと分かった。

いれた生き物 ... 黒メダカ、トウキョウダルマガエル、ドジョウ

トウキョウダルマガエル



捕まえるのが大変!!



黒メダカ
↑
けっこう目が小さい

10



テ - タ

幅: 90cm | 深さ: 20cm

速さ: 木少速 15cm

護岸の状態: 三面コンクリート護岸

この川は沼から流れ出た水が流れている。エサや、卵を産む場所がありそうだったのが、ここにはメダカは、沼からたまたま流れてきただけで、次の日にきてみると一匹もいなかった。三面コンクリート護岸だからいないのだろうか と思った。

いた生き物... 黒メダカ、ウキゴリ



ウキゴリ 最初は雷魚(カムルチー)の子どもかとも思った。父が釣ってくれた。

↓



↑

黒メダカ。たぐさト糸網ですくった。これよりも捕えた。



データ

幅：約20m

深さ：100cm

速さ：秒速5cm

護岸の状態：

二面コンクリート護岸



高速の橋の下にあり、ななめのコンクリートの堤がある。いかにも人工的だった。幅もあり、岸にメダカがいそうなかんじがしたが、糸巻局いなかった。

いた生き物... ウグイ

いたけれど、捕えなかった。

12

テ - タ

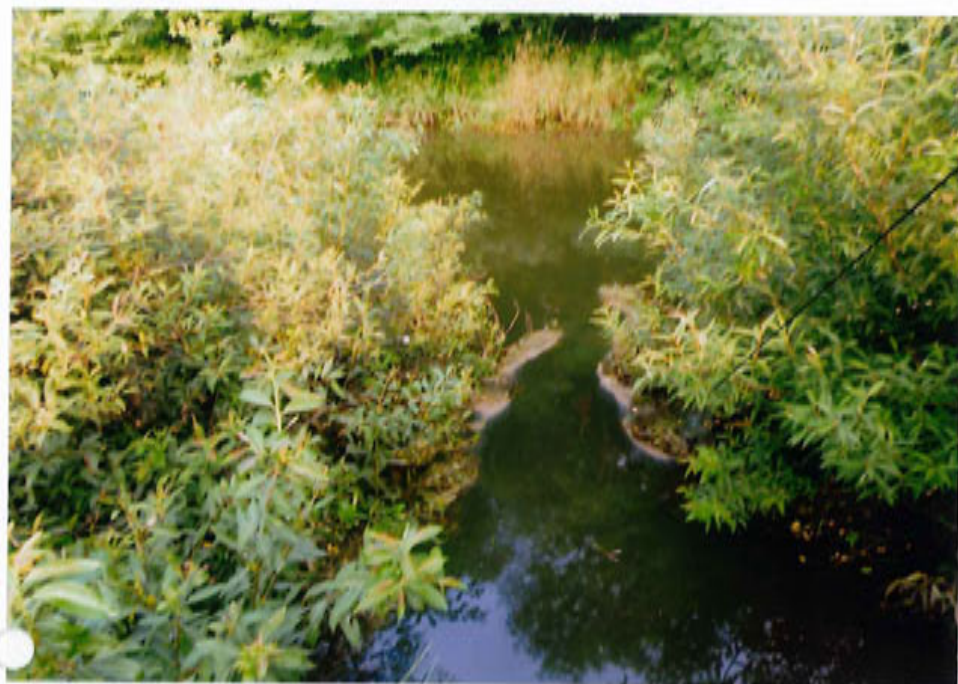
幅： 10 m

深さ： 100 cm

速さ： 木少速 5 cm

言葉岸の状態：

総素掘り



幅は広いが、流れはゆるりとしていた。ブラックバスやメダカなどかいないそうだったが、いなかった。水は少しにごっていて、中は見えなかった。⑬と周りの環境がまったく反対だった。水の透明度もメダカがいる場所の条件と関係しているのだと思った。

いた生き物…なし

データ

幅: 60cm

深さ: 30cm

速さ: 木少速 15cm

護岸の状態:

三面コンクリート護岸



水路の写真だけ撮れば、普通の水路に見える。
 しかし、この水路は、町の中のセブンイレブンの馬車場の横を流れていた。流れがゆったりとしていて、ヤリタナゴがいた。町の中の水路にヤリタナゴがいたことにびっくりしたが、メダカもいそうだったけれど、いなかっただけが残念だった。

いた生き物... アブラハヤ、ヤリタナゴ



ヤリタナゴ

父が二十匹くらい
 ←釣った。体長6センチほどだった。

3. まとめ

今回の13ヶ所では、メダカがいないかった理由として考えられるのは次の5つだ。

1. 流れが(速い)

流れが速い所では、生き物がいないかった。メダカは、強い流れに逆らえない生き物なんだと分かった。

2. 浅すぎる

家で飼っているメダカの水深は15cmで、メダカがいたところの水深は15cm以上だ。この深さにくらべて3cmという浅さは、浅すぎである。水そうの水が蒸発する時、深さについて注意されたりするから、水中の生き物は、適度な深さも必要だということが分かった。

3. エサ不足

4. 産卵場所がない

5. 水がにごっている

水がよごれていたりすると、魚に有害なものがあったりして、病気になるのかと思った。

1と2は自分で考えたことだが、3と4は学習したことだ。今回の調査で習ったことを確かめることができた。

4.

感想

僕は、最初 ヌタカは猪苗代の水足各にたくさんいて、すぐ見つけられると思っていた。しかし、なかなか見つけられなくて、ヌタカが生きられる場所の条件が多いんだなあと思った。

一番印象に残ったのは、護岸を調べることだった。はい、めでたに

「護岸の状態もかいたら」
とアドバイスをされた時に、なんていえば「いいのかわからなかったけれど、三面コンクリート護岸など」を考案してもらい、これはイロだ」と分かるようになった。

どうしてヌタカがいなかったのかは、きり分らなかったところもある。もう一つ、川のように言ったら「よかったと思うことは、水温だ」。ヌタカがいる最適の水温は何度かも分かれは、もっとはっきりヌタカがいなかった理由が分かったかもしれない。今後、水中の生き物について調査する時は、必ず水温もはかるうと思った。